

行政自治会だより

第24号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 熊木 津佐雄

新年のごあいさつ



古河市行政自治会

会長 熊木 津佐雄

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかに初春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。昨年は自然災害の多い年となってしまいました。異常気象によって豪雨や大型台風が多発し、7月には西日本各地で記録的な豪雨に見舞われ、大きな被害をもたらされました。また北海道では大地震による山崩れや大規模な土砂災害で多く

の方が被災しています。自然災害を防止することは不可能ですが、人的被害を最小限にとどめるためにも各人が日ごろより、備えや行動を確認しておきたいものです。行政自治会としても、より一層の対策を推進していければと考えております。

今年が平成の最後の年となり、元号が新しくなりますが、新たな心でスタートして「健康で、安全、安心な」明るく、住みやすい町づくりをこれからも継続して推し進めてまいります。今後とも会員の皆様には、より一層のご協力をお願いいたします。

結びに、新しい年を迎えて皆様にとりましてより良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

防災訓練が実施されました

平成30年11月25日（日）、名崎小学校において古河市地域防災訓練が実施され、行政自治会第20地区の15行政区および名崎名の崎会、約300人が参加しました。訓練は、茨城県南部を震源地とするマグニチュード7.2の直下型地震が発生し古河市は震度6強の烈震で、市内各所で建物倒壊、火災の発生、道路の損壊などの被害が発生した事を想定して行われました。

参加した住民による初期消火訓練と簡易担架の組立にブルーシートや毛布を使用した搬送訓練を行いました。また、校舎屋上から地上に降りるためのはしご車による救助訓練も行われました。

その後、体育館に移動して消防署員による三角巾の使用法の説明があり、各グループに分かれて三角巾の使用を体験しました。最後に自衛隊による炊き出し訓練のカレーライスが配布され解散となりました。

(第20地区 地区長 峯本茂)



避難誘導訓練



消防団による放水訓練



はしご車による救助訓練



初期消火訓練



簡易担架の組立・使用訓練



消防署員による応急手当講習

※『行政自治会だより』は古河市公式ホームページからもご覧いただけます。

行政自治会視察研修

行政自治会では、平成30年10月26日・27日の2日間、自治会長・行政区長106名参加のもとバス4台に分乗して視察研修を実施しました。

研修先は、福島県の会津地方と浜通りのいわき市小名浜です。テーマは、「災害（津波）から学ぶ自助と精神」。2011年3月11日の東日本大震災から7年半が過ぎました。その間、行政自治会では視察研修で新潟県（小千谷・長岡）や宮城県（仙台）を訪れ、直接現地で地震の恐ろしさを学び、静岡・山梨・厚木市の防災館ではさまざまな災害体験を研修してきました。今回は災害が起きた時の精神に迫ろうという研修です。

会津市内の武家屋敷を見学した後に芦ノ牧温泉の会場で、いわき市からお出でいただいた「いわき語り部の会」の大谷慶一さんから、「震災講話」と題して津波の体験をお聞きしました。津波のとき自分は何をして何を感じたか……。壮絶な実体験からくる人々のありさまが淡々と語られ、津波の恐怖はもとより災害時のパニックの様子が緊迫していて切実に感じられました。講演のあと私のところには、「津波がくるまえの海で、海の底をみた」・「今も逃げているときの記憶が抜けている」・「最後は人を助けることを放棄した」の言葉が残りました。

災害時の自助とは先ずは自分の身を守ることを指しますが、死者・行方不明者が約1万5千人を超え、二次災害の原発事故で約10万人の避難生活を余儀なくされた大災害では、そこにいた人それぞれに自助があり、運があって助かったのが事実でした。そして、身近な人を亡くして助かった人には精神破壊がおき、その後の生活は後悔とPTSD（心的外傷後ストレス障害）で苦しむ毎日でありました。想像はしていても経験者の言葉

は重く、こころのケアは生涯につづく認識させられました。自助・共助・公助の考え方は、災害復興のあとも精神的なところでより永く必要だと痛感するに至りました。

ご存知の通り会津は、かつて人気の修学旅行先でした。会津は、鶴ヶ城・白虎隊・武家屋敷などの史跡の他に「什の掟」に代表される独自の文化が育まれていて、独特の精神を感じさせてくれる土地柄です。大震災のあと放射能の影響は、実は関東地方より少なかったそうです。しかし、敬遠されて観光客も含めて激減し、風評被害は今もまだ続いています。

帰途に寄った小名浜では、「アクアマリン福島」の海とは反対側に「防災モール」と名づけられ今年6月に建てられた大型ショッピングセンターがありました。時間があがり一人そこを訪れてみると、エントランスからの内壁に津波の最高ゲージがラインで示されていました。買い物に来た誰もが最初に目につくそれは、かつての津波を忘却しない精神でした。外に出てみると、暖かな日の潮風のなかに子供を連れた若夫婦がたくさん見受けられ、楽しそうなその姿が印象的でした。

（広報委員 若林俊彰）



「いわき語り部の会」大谷氏による講演の様子

「市長と語ろうまちづくり」が開催されました

平成30年9月～11月にかけて「市長と語ろうまちづくり」が「災害に強い街づくり（減災）」をテーマに市内を9ブロックに分けて開催されました。

針谷市長から、テーマを大きく6つに分けた、「古河市の人口推計とその影響」、「皆で減災」、「自然災害に学ぶ」、「古河市の災害対策」、「地域防災力の向上」、「まとめ」の説明を聞きました。

その後の質疑応答では、経験のない災害が起きた時に、対応が難しい災害対策や避難所の設置等、古河市としても常に検討しているとお答えいただきました。また、地域の協力が不可欠であり、

皆で災害に強いまちづくりを考えて行きたいとの事でした。

（広報委員 蜂須誠司）



各会場とも活発な意見交換がなされました

古河神楽保存会の紹介（第4地区）



保存会による中田代々神楽（鶴峯八幡宮）

古河市中田の鶴峯八幡宮に伝わる中田代々神楽は、昭和4年に鶴峯八幡宮の氏子を中心となって保存会が結成され、昭和49年に古河市民俗無形文化財一号に指定されました。現在は顧問、会員合わせて28名で努めています。春の例祭は4月第2日曜日（雀神社）、第3日曜日（鶴峯八幡宮）、秋の新嘗祭は11月23日（鶴峯八幡宮）にて保存会の会員や小学生が地域に受け継がれた伝統の舞を披露します。こども神楽親子教室や市内の小学校での神楽体験授業などを行い、古河市民文化祭にも参加しています。昨年の新嘗祭では、町内の方々のご協力で作られた山菜おこわ、けんちん汁が振舞われた他、沢山の出店もありました。今年の春祭りにはぜひ足をお運び下さい。

（広報委員 蜂須誠司）

第8地区 ウォーキング大会と「食から始める健康づくり講座」の開催

平成30年12月1日（土）、第8地区コミュニティ（会長 勝広二氏）主催の第9回ウォーキング大会と「食から始める健康づくり講座」が開催され、6行政区（上大野、小堤、稲宮、関戸、新町、リバティヒル135）から、約200名の皆様が参加しました。ウォーキング大会では、各行政区それぞれのコース出発地点を8時30分にスタートし、共通到着地点の小堤集落センターを目指して、40分前後初冬のウォーキングを楽しみました。ウォーキング大会終了後は、集落センターのホールにおいて、古河市健康福祉部健康づくり講師による、「食から始める健康づくり」について講演があり、大変関心を持って聴講をしていました。

（広報委員 尾沼卓）



天候にも恵まれ、皆さんウォーキングを楽しみました

第15回名の^{はな}崎会ファミリースポーツ大会が開催されました

第20地区コミュニティ「名^{はな}崎会」主催の「名^{はな}の崎会ファミリースポーツ大会」が平成30年11月11日（日）、古河市立三和東中学校で盛大に開催されました。大会には、9行政区から



子供たちの熱戦が繰り広げられました（ドッジボール）

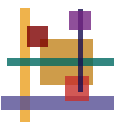
三世代の約300人が参加しました。試合会場では、応援と歓声が飛び交い大いに盛り上がりました。

また表彰式では、小中高生、個人、団体の各賞に加えて80歳以上の参加者（12名）に対する功労賞の表彰もあり、まさに、三世代間の親睦と交流が深まった有意義な大会も、ほぼ予定の時間で終了いたしました。選手並びに大会運営の皆さん本当にご苦労様でした。

（広報委員 西村榊）

大会結果（5種目総合）

優勝	準優勝	3位
加下間行政区	下内行政区	下尾崎一行政区



平成30年7月3日～9月2日に東京国立博物館で開催された「縄文—1万年の美の鼓動—」展。1時間待ちは当たり前前の長蛇の列。1万3千年前から約1万年間続いたとされる縄文時代は、人びとの関心を引きつけてやみません。火焰型土器のもつ実用とはかけ離れた装飾性や、土偶のいでたちからは、なにか今の私たちの感覚とはちがう、新鮮な「美」を感じられるのかもしれませんが。とりわけ、人の顔を模した土偶や仮面は、それぞれに違った表情があり、作り手の思いやその用途に想像力をかきたてられることでしょう。

ところで、古河市内からも土でできた仮面が見つかっていることは、あまり知られていないかもしれません。現在の国道354号線と県道56号線の交わる「釈迦北」交差点。この周辺は、釈迦才仏遺跡と呼ばれ、採集される土器などから縄文時代の遺跡と考えられてきました。1995年から、道路の新設に先立って、発掘調査が行われたことで、縄文時代の竪穴住居跡や、古墳時代の方形周溝墓などが発見されました。土製仮面は、住居跡の覆土（遺構内に堆積した土）の中から発見され、縄文時代後期前葉のものと考えられています。

り出されています。もともとは耳にあたる部分もあったと思われる、画像左の耳部分に孔が開いていた跡が見えます。両目の外側やや下部には、紐通し孔と見られる部分も有ります。画像右の頬部分には、窪みも見られます。髭、もしくは入れ墨のようなものをあらわしているのでしょうか。

こうした仮面の用途は、「祭祀や儀礼に使用された」と考えられていますが、出土品そのものからは、はっきりとした用途・目的はわかりません。しかし、であるからこそ、「一体何のために、だれがこんなモノを作ったのか。」という謎が、わたしたちの想像力をかきたてるのでしょうか。

今や、大型トラックや乗用車が行き交う場所となった釈迦才仏遺跡。忙しくすぎる日常のふとした瞬間に、道端の草むらに目を転じると、縄文時代の息吹を感じることができるかもしれません。

(取材：広報委員 尾沼卓)



【参考文献】

- ・茨城県、財団法人 茨城県教育財団1998『茨城県教育財団文化財調査報告書131集 主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋B遺跡 釈迦才仏遺跡』
- ・総和町教育委員会編 2001『そうわの文化財8号』
- ・古河市教育委員会編 2016『古河市の文化財』



釈迦才仏遺跡出土土製仮面（古河市教育委員会蔵）

出土した土製仮面を観察してみますと、額の一部、口部から顎部にかけては欠損していますが、最大長は10.6cm、最大幅は13.5cmを測ります。両目は円形の孔で、眉から鼻にあたる部分は、凸文様で強調して表現されます。画像からは分かりにくいかもしれませんが、鼻の穴までしっかり作

編集後記

「行政自治会だより」は新しいシリーズも始まり、内容を充実し皆様の興味ある記事を取り入れたいと広報委員は頑張っております。現在「行政自治会だより」は、回覧で皆様の元に届けておりますが、平成30年8月より公民館・図書館等の公共施設に設置しておりますのでご覧になって下さい。
(広報委員長 梅津信男)

行政自治会広報委員会

- | | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 委員長 | 梅津 信男 | | |
| 委員 | 鶴見 尚司 | 蜂須 誠司 | 長濱 弘道 |
| | 尾沼 卓 | 白石 芳巳 | 若林 俊彰 |
| | 北山 正 | 西村 紳 | |